



## 路地裏探検隊

江戸時代から存在する「近江辻子」や、文化交流の場となった「俳句横丁」、近年新たに生まれた「カナマル小道」、そして存在自体が幻の「鍛冶屋通り」など、桐生のまちには魅力的な路地が溢れている。そんな多彩な路地とそこにある飲食店を紹介しながら、まちなかの賑わい創出に貢献するのが「路地裏探検隊」である。

探検隊は、案内人の先導のもと路地裏の飲食店3店舗を訪問。どこに行くかは分からないミステリーツアーで、居酒屋からスナック、バー、割烹など、その店自慢の一杯と肴一品を楽しむ。主催するのはファッションタウン桐生推進協議会（事務局＝桐生商工会議所）の路地裏研究会プロジェクト（金子由美彦リーダー）で、魅力ある路地を整備するための調査や研究を目的に2013年（平成25）に活動をスタートした。夜の飲食店街に足を踏み入れたことのない人や、久しく桐生の夜の街を離れてしまった人たちが、安心して飲みに行けるきっかけにしてみよう、同年11月に第1回探検隊を企画した。

第1回開催時には20人程度だった参加者は、今では毎回100人近くを集める。また、飲食店の協力が不可欠な中、活動に理解を示す協力店舗も30件を超えた。夏期には浴衣や甚平、冬季にはマフラーの着用を呼びかけるなど、路地裏に風情と産業の特色を出そうという意欲的な試みもあり、イベントの認知度も徐々に高まっている。

2015年（平成27）からは「昼の路地裏探検隊」も新たに開催し、昼間の路地散策を通じて、プロジェクトのもう一つの目的である、路地裏の工房やそこで活動する作家の紹介と、路地そのものの魅力を発信する。

産業の隆盛が人とモノの流れを生み、それに伴い発展してきた路地裏とその名店たち。多種多様な飲食店が並ぶ桐生の路地裏は、長い産業史が育んだ一つの賜物かもしれない。外国人旅行者にとっては異空間のパラダイスに映るという日本の路地裏は、観光コンテンツとして十分な潜在力を持ち、「路地裏探検隊」は桐生の新しい産業観光の形として可能性を示す。



次回、「第16回路地裏探検隊～ゆかたで闊歩～」は7月26日（木）開催で現在参加者募集中。申込みは事務局まで（Tel.0277-45-1201）。

どこに行くかはお楽しみ

路地裏の名店めぐりミステリーツアー